

国道415号県境部に関する有識者委員会(第2回) 議事要旨

■開催日時

令和6年10月9日(水) 10:00~12:00

■場所

石川県地場産業振興センター 本館2F 第2会議室

■委員名簿

氏名	所属・役職	出席
かわむら くにお 川村 國夫 (委員長)	金沢工業大学 地域防災環境科学研究所 教授	○
はら たかし 原 隆史	富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 教授	○
ふるや げん 古谷 元	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授	
ほしかわ けいすけ 星川 圭介	富山県立大学 工学部 環境・社会基盤工学科 教授	○
はやし きよみ 林 紀代美	金沢大学 人間社会研究地域創造学系 准教授	○
ふじう まこと 藤生 慎	金沢大学 融合研究域 融合科学系 准教授	○
かたぎり ゆきこ 片桐 由希子	金沢工業大学 工学部 環境土木工学科 准教授	○
ましも ひでと 真下 英人	(一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所 所長	○

(敬称略、順不同)

■議事概要(各委員からの主な意見)

(委員)

- 意見聴取では、地元住民から集落とのアクセス性に関する要望が多かった。今後のルート検討においては、是非、アクセス道路にも配慮いただきたい。

(事務局)

- アクセス道路にも配慮し、ルート検討していく。

(委員)

- 検討箇所周辺には、森本富樫断層帯および邑知潟断層帯が存在している。地震発生予測を踏まえ、必要な対策を講じていただきたい。

(事務局)

- 地震予測規模を踏まえ、最新基準に基づき、最新の技術力も含め、検討していく。

(委員)

- 能登半島地震や奥能登豪雨では、主要道路の被災により、道路啓開や復旧復興に遅れが生じ、改めてリダンダンシーの重要性を強く認識した。計画区間は地すべり地帯であるため、積極的に地質調査を実施し、地すべり対策や軟弱地盤対策は詳細に計画・検討し、能登半島地震の被災状況を踏まえた、災害に強い道路としていただきたい。

(事務局)

- いただいた意見を踏まえ、道路計画や各種対策について計画・検討していく。

■結論

- 対応方針については、【Bルート帯】が妥当である。
なお、「計画区間については、地すべり地形付近を通過し、施工に伴う地山の変位が懸念されることから、能登半島地震や奥能登豪雨の被害状況を踏まえ、積極的にリスクを軽減できるよう道路構造や施工計画を検討すること」との意見をいただいた。